



何彬

かひん

K A H I N

メッセージ

大学院生時代の日本留学の際に、ゼミという授業の形式を初めて知り、レポート提出の頻繁さに驚かされました。留学およびその後日本の大学教員を務めた時に、日本語はテキストから習ったものと実際に日本社会で使用する言葉との違い、論文の構成と書き方の特徴、中国式と日本式の思考方法の違いなど多く感じました。これらの経験を生かして皆さんの留学のサポートになることができれば幸いです。

専門・研究分野

民俗学、東アジア研究、日本研究

講師紹介

北京師範大学大学院博士課程修了（文学博士）、神奈川大学大学院論文博士（歴史民俗資料学博士）。

東京都立大学名誉教授。大学院在学中に、2年間日本留学（民俗学）。国際アジア民俗学会副会長、中国民族学会海外理事、日中人文社会科学学会会長、日本民俗学会会員、(日本)比較民俗学会会員など歴任。現在、北京高等教育先端学科建設プロジェクト文化遺産・文化伝承基地顧問、中国食文化研究会専門家委員会委員。

著書『中国東南地域の民俗誌的研究』日本僑報社、2013（第十六回華人学術賞受賞）『（中国）江浙漢族の喪葬文化』中央民族大学出版社（1995）、論文「日本社会の生活と塗り箸——若狭塗り箸の調査と分析」上海箸文化促進会・華東師範大学非物質文化研究センター・上海市松江区非物質文化センターが共同で開催された『第六回中国箸の文化シンポジウム』2019.10.15.（中国銀箸賞受賞）、ほか翻訳・著書・共著など多数。